

## 第4回(仮称)浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会 議事録概要版

---

### 【テーマ】「(仮称)浦和駅周辺まちづくりビジョンとりまとめ(素案)について」

#### テーマ①

「将来像を実現するためのまちづくりの展開について」

#### テーマ②

「まちの将来像の実現に向けて」

【開催日】令和4年 11 月 17 日(木) 14:30~16:30

【参加者】隈研吾会長、安藤梢委員(事前収録)、坂井貴文委員(事前収録)、廣瀬通孝委員、向井亜紀委員、  
安河内眞美委員、市川淳平委員、三木康史委員、鳥羽三男委員、清水勇人座長

### 【意見概要】

#### 意見テーマ ① 「将来像を実現するためのまちづくりの展開について」

##### (坂井委員)

- 方針・展開にある「サステナブルサイクル」や「グローバルに活躍できる力の育成」には『学び』の内容をもう少し織り込んだ方が良い。学びの内容として、趣味の為の教養講座、仕事のスキルアップにつながるリスキリング・リカレント教育などを全体に組み込めると良い。
- 「歴史文化保全活用ゾーン」、「文化芸術保全活用ゾーン」は浦和ブランドの原点とも言える歴史を学び、保全することで、浦和プライドの発展にもつながる。一方で、過去を理解して学ぶだけでなく、未来に向けて新たなことを学ぶ必要性も明示することは大切である。

##### (安河内委員)

- 緑のある道づくりを更に充実させ、中山道を起点として、そのまちの由来を感じられるものを保存し伝えていくことで、歴史やつながりが見えると奥行きのある、歴史を大切に歴史と共にあるまちをつくっていけないのではないか。バーチャル技術を活用して浦和のまちの探検できるなど遊び要素のあると面白い。
- スポーツの盛んなまちづくりを進める上で、プールや体育館など学校施設を時間によって地域住民も使えるようにするといったハード面や、課外活動や運動を専門家に任せるといったソフト面において、学校と地域がお互いに活用できる関係になると良い。

##### (安藤委員)

- 海外ではスポーツバーなど人があつまる場所が多くあり、サッカーでコミュニケーションが生まれている。浦和も、スタジアムまでの道のりの中で、ファン・サポーターが仲良くなる、盛り上がる場所ができるとうい。
- 海外では選手の動きなどをデータ化する技術が進んでいて、スタジアムの外でデータを見られるようになってきている。今後駒場スタジアムでもそういったものを一般の方でも見られるようになるとうい。サッカーに限らず様々なスポーツでデータ化された情報を一般の人も見られるようなシステムが発達すると、プロ選手を目指したり、スポーツ研究に関心をもってくれる人が増えて良いと思う。

##### (鳥羽委員)

- 駅の役割は進化し続けており、ただ電車に乗るだけでなく、地域との連携・つながりを重視した取組みを発信する場所として変わってきており、駅周辺のまちづくりを語る上で非常に重要である。

- 「駅前再構築ゾーン」では、東西自由通路や駅前広場など、ゆとりある空間を整備し、そこをつなぐ「ウォークアブル空間創出ゾーン」では、歩いて楽しいストーリーがあり、小道がある。また、新たなモビリティ活用の面では、シームレスで移動しやすい道を作ってほしい。
- 「風格ある県都創造ゾーン」では、災害時における帰宅困難者の受入れ体制強化、備蓄や通信、電力、電源供給施設の充実により、災害に強く安全・安心なまちの基盤となってほしい。

#### (三木委員)

- まちづくりの中心は“ひと”であると改めて認識した。伊勢丹は浦和の地で40年商売をしているが、お客様をもう一度“個”で捉え、どのようにパーソナルな価値提供ができるかという小売りの原点に戻り始めている。その実現手法としてDX、アプリなどのITツールを活用しており、全社を挙げて取り組んでいる。
- 浦和の価値をどういったひとに伝えたいのか、上質な生活スタイルを営む方が中心となっている浦和の方々に対し、浦和のまちとしてどういった価値を展開の中で提供していくのか、どういったひとに来て欲しいのか、そのひと達に対して必要な提供価値は何なのか…浦和の持っているレガシーや独自性を掛け合わせた中でまちづくりの展開の中に付け加えられる価値が何なのかを検討できると良い。

#### (市川委員)

- 「県都・都心にふさわしい、風格のあるまちの再構築」について、威厳と風格放つ埼玉会館を県庁通りの基軸に据えて欲しい。県庁舎整備にあたっては、県の動向を注視し時に協力して、風格あるまちなみ形成を行ってほしい。
- 「浦和らしい、多様なライフスタイルを実現できる居住環境の形成」について、老朽化が進むイトーヨーカドーや浦和パークিংを含む周辺の再開発の動きが、「都心居住、商業・商店街ゾーン」の今後の課題かと思う。
- 北浦和駅周辺は、埼玉メディカルセンターや水辺のある北浦和公園、駅東西には昔懐かしい商店街のたたずまいが残っている。商店街存続・活性化のためにも、北浦和駅周辺を都心居住、商業・商店街ゾーンへの位置づけを検討してほしい。駅のポテンシャルを生かした周辺整備によってより良いエリアになると考える。

#### (向井委員)

- 私たちの世代は、色々な夢を持っていて、生まれ育った地域に何ができるかアイデアをいっぱい持っている。
- 「浦和」にはたくさん駅があり、集まりやすく素敵なまちということをもっと発信してほしい。
- 私たちの世代は、昭和の時代の大先輩の凛々しいかっこいい文化を、若い世代に伝えていく役割ができる。それこそが難しく考えない、一番あたたかみのあるSDGsではないか。
- 浦和には学校、スポーツ施設がたくさんあるため、子どもたちがスポーツの試合を直に見て体感できる環境がある。試合を支えている企画、運営、管理のスタッフなど隅々まで見ることができるチャンスがあることを生かしてほしい。芸術も同じで、様々なひとがいるからいろいろな文化芸術が身近なところで生きているということ子どもたちが感じてくれる、昭和のような繋がりがあってほしい。
- 浦和に住んでいるひと達が大きなファミリーとして子どもを育てることに携わることで、子どもの自己肯定感が高まる。そんな浦和のまちで、新しい文化や新しい動き、新しい職業など新しいつながりが広がっていくことを夢見ている、私たち世代が動けば、引っ張り寄せることができると思う。

#### (廣瀬委員)

- 展開の中で、モノ・コトに加えて情報を入れていただいているのは非常に重要な事。
- 地元の方々“個”のディテールがすごい。一人ひとりをどう見ていくかは、全般的な細かい分解能で様々なことが出てくると思う。情報化という没個性を考える人がいるが、これは昭和の考え方であって、実は情報技術の持っているものは徹底的な個別化にある。
- 保全是変えないこと、開発はどんどん変えてくことなので矛盾しているが、“情報”はこれを解決する唯一の手段ではないか。バーチャル空間を重層的に使うことで、物事を解決する空間や手段が増えるので、そういったところを使っていけると良い。
- 中山道ひとつにしても、平安時代の昔の中山道、江戸時代になって整備されてからの中山道、明治になって馬車が出てきた時代の中山道、鉄道や新幹線が出てきたときの中山道などいくつかの姿がある。その中で比較交通学のようなことをやってみると、中山道をキーワードとして色々なコンテンツが展開していく。情報デバイスを持ちながら新しい遊びを発見し、何か別の情報や学びに繋がっていく、そういったものができてくると良い。

**(隈会長)**

- 「ゾーン」「軸」という考え方がはっきりと見えてきて筋が通ってきたなと感じる。「ゾーン」と「軸」というのは、近代都市計画の一番基本的な道具であり、「ゾーン」は都市のデザインを考えるときに機能や性質をはっきりとさせるもの、「軸」はゾーンを貫く概念で、全体を繋がって感じさせる、ひとつの都市にするもの。
- 「ゾーン」と「軸」の曖昧な部分、中間領域をどう拾い上げるかが重要で、整理しすぎると抜け落ちてしまつてつまらない都市になってしまう。曖昧な中間領域や触媒は、様々な化学反応をもたらす。触媒がどうこのまちに埋め込まれるかといった部分もこれからの課題になるのではないかと。
- 触媒は自主的に生まれるものでもあるが、同時に行政が仕掛けていく部分もすごく重要。ゾーンの整理と同時に、色々な意味での触媒を仕掛けていく仕掛け人としての役割も行政には期待される。浦和はそのネタをたくさん持っているので、今後どう計画に活かしていくかが重要。整理されすぎてつまらない計画になるか、計画した甲斐あって面白い計画になるかの分かれ道なので、ぜひ浦和は世界のまちのリーダー的なポジションとして発信していけるとよいと期待している。

**(向井委員→隈会長)**

- 浦和の魅力を打ち出していく中では、新しく浦和に入ってくるひとにもたくさんいてほしい。浦和という魅力的なまちに新しい人を引き入れる引力となるような何か、ウェルカムな空気づくりについて、どのようなイメージをされているか隈会長に伺いたい。(向井委員)
- 浦和には既に魅力やコンテンツがあり、浦和に引っ越したいひとはたくさんいる。マグネットとしての力は既に持っているが、長期的に考えたときには、どういうひとに来て欲しいのか、選別が働くまちが良いと思う。浦和に来たばかりの人はいつまでもよそ者ではなく、すぐに浦和のひとになる。まちに来てすぐのひとは活動がアクティブ。そういうひとたちを排除しない、いつまでもよそ者ではなく、すぐに浦和のひととして受け入れてその人たちが頑張ってくれる、そういう流れが生まれてくるような仕掛けを期待したい。(隈会長)

**意見テーマ② 「まちの将来像の実現に向けて」**

**(坂井委員)**

- 先日、個人の「ハピネス（幸せ）」は、コミュニティの深さと数の掛け算であるという講演を聞き、大変強い感銘を受けた。一方で近年は新型コロナウイルス感染症の影響で、個人の分断がさらに進ん

だように感じている。浦和の持つ多様性やブランド力を生かしてハピネス（幸せ）を増やしていくためには、コミュニティを支援するためのハード、ソフト面の充実を図り、持続可能なコミュニティの再生が大切だと改めて思う。

- 懇話会では、文教都市浦和の歴史を見つめなおし、浦和のまちのパワーを改めて感じる機会となった。埼玉大学も浦和のまちづくりに協力、貢献していきたいと思う。

#### **（鳥羽委員）**

- 近年、日本全体として駅前の景色が均一化してきていると感じている。駅周辺のまちづくりには、空間の充実というのが大切。
- ゆとりある暮らし、防犯・防災は地域の人が自分事として捉えることが必要。浦和への熱い思い・愛がまちづくりに繋がっていくのではと思う。

#### **（三木委員）**

- 浦和は、芸術や文教都市としての教育環境、住みやすさなどを生活の中の上位の価値観として位置付けている方が集うまちである。そういった方々に魅力を感じてもらえるまちであり続けなければならない。
- 今回のビジョンの中で重要なピースとして、市役所跡地、結節点である駅前がどうあるべきかといったことが非常に重要になってくると思う。
- 浦和の独自性のある拠点をつくるためにどうすべきか、これから官民連携で皆さんと一緒に話をし、我々大型商業施設も貢献していきたいと思っている。

#### **（市川委員）**

- 浦和エリアは今後しばらくマンション建設が続き、人口増加も続くと思われている。購買層は概ね30代から40代が中心だが、ビジョンで想定する30年後は60代70代になる。浦和に限ったことではないが、まちの新陳代謝の促進を考える時がいずれ来るのではないかと。
- コロナ禍において、まちからひとの姿が消え、ひととひとのつながり、ひとと地域や社会のつながりが一時的に失われ、まちもその機能を十分に果たせなくなっていったように思う。そのまちに何があるか、まちの環境や特性はそこで生まれ育ち、生活するひとの性格や社会性に影響を及ぼすものと思う。“まちづくりは人づくり”という側面もあるのではないかと。

#### **（安河内委員）**

- 日本各地の駅や空港が全部同じであると感じている。画一的で無機質では面白くなく、そこにプラスして人間的なものやここに来たらちょっと違う何かが演出されていると良い空間だと感じる。
- 日本画も同じで、いかに空間をうまく使っているかで心地よい絵だったりする。日本の感覚はそういったものを求めている部分があるのではないかと。

#### **（安藤委員）**

- 浦和は、サッカーの試合がある日には、ユニフォームを着たひとがコンビニにいたり、家にレッズの旗が掲げられたり、試合があることが分かるくらいサッカーが溢れるまちになる。そういった雰囲気が出せるまちというのは浦和ならではの思う。
- 今後エリアプラットフォームを作っていくにあたり、レッズレディースももっとサッカーを通して子どもや高齢者など色々な方々と関わっている活動を増やしていきたい。
- まちづくりビジョンができることがゴールではなく、これから浦和のまちがもっと元気になっていくスタートだと思っている。

#### **（廣瀬委員）**

- 自立的にコミュニティが形成され、良質なコミュニティが醸成されることが重要だと思う。浦和は国

内でも相当リテラシーの高い方々が集まっているコミュニティだからこそ、自律分散で良い感じで進むのではないかと考えている。

- 我々の分野において「子どもは未来だ」と言われるが、いま子どもたちがやっていることを見ると未来の姿がよく見えるということであり、その中でもデジタルは好かれていたりする。そういったところから新しい価値基準ができるだろうし、浦和の未来は明るいと感じている。

**(向井委員)**

- いろいろな分野のスペシャリストの意見が集まる場、こういったアイデアの集まる場所こそが浦和の未来を映し出して素敵だと感じている。
- 子どもたちには、浦和で育ったことで色々なことを間近で見体験させて、その中で自分が生かせる場所を自分のペースで自信を持って見つけていけるような、そんなまちになると浦和はみんなの憧れのまちで居続けることができると思う。
- ゾーンや軸をつくり、その周りで浦和愛にあふれたひとが触媒となって繋げる、触媒になりたいひとがたくさんいる。そういった中で今回、浦和愛を思う存分語る事ができていい勉強になった。浦和の未来が楽しみだと心から思っている。

**(隈会長)**

- 多様なメンバー、年齢層が参加するまちづくりがこれからの鍵になり、浦和のまちには似合っている気がする。プラットフォームの中の人たちで触媒作用や化学反応など、いろいろなことが起こることでもまちが楽しいものになる。
- ビジョンができ、次にプラットフォームができて実践というように進んでいくと、素晴らしい浦和ができるのではないと思う。